1　課題名　漁場効果調査
2　区　分　県単
3　期　間　平成6年度～
4　担　当　企画情報部（小久保友義）
5　目　的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業推進に資するため，魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする．

6　成果の要約

（1）試験方法

ア　熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

調査対象の中層浮魚礁は，I礁（白浜町市江埼沖），SU礁（すさみ町江須埼沖），S礁（串本町潮岬沖），KU礁（串本町樫野埼沖），K礁（太地町梶取埼沖）の合計5ヶ所で（図1），和歌山南漁協（本所）から宇久井漁協までの3漁協［和歌山南漁協（本所・すさみ支所），和歌山東漁協（本所・古座支所・浦神支所），宇久井漁協］に所属する曳縄釣漁業者14隻による標本船調査を実施した．調査は，曳縄釣漁業が最も盛期となる3～5月の春漁を主体としたが，和歌山東漁協（本所・浦神支所）では戻りカツオを対象に10～11月にも行った．

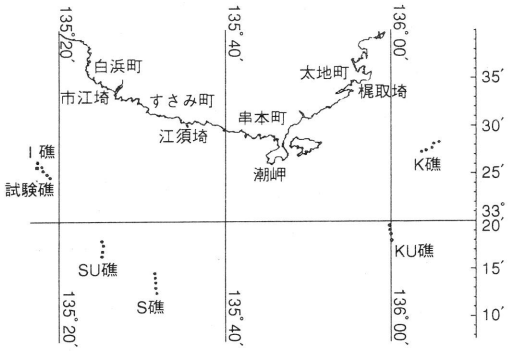

図1　中層浮魚礁の設置位置

イ　日高南部地区人工魚礁（印南町沖合）

印南町沖合の大型魚礁（昭和48年，56年度設置）と日高南部地区人工礁（昭和60～平成2年度設置）を対象として，効果調査を実施した．方法は，紀州日高漁協印南町支所の職員が漁業無線を使って，魚礁で操業している漁船を聞き取った後，その水揚データを収集した．

ウ　日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

白浜町日置沖合の大型魚礁（平成12年度設置）を対象として，効果調査を実施した．方法は，和歌山南漁協日置支所の職員が市場に水揚した漁業者の操業場所を聞き取り，魚礁で操業した漁船の水揚データを収集した．

なお，調査は4月～翌年3月まで周年にわたって実施しているが，結果については暦年で取りまとめた．

（2）成果の概要

ア　熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

標本船は，延べ703隻・日操業し，カツオ34.2トン，その他（ビンナガやキハダ他）8.3トンを漁獲した．このうち中層浮魚礁のI礁域では延べ3隻・日操業し，カツオが136kg，その他が22kg，SU礁域では延べ5隻・日操業し，カツオが276kg，その他が9kg，S礁域では延べ6隻・日操業し，カツオが428kg，KU礁域では延べ7隻・日操業し，カツオが366kg，その他が61kg，K礁域では延べ7隻・日操業し，カツオが200kg，その他が28kg漁獲された．この結果をもとに，漁協別標本船での漁獲率（中層浮魚礁での漁獲量／全漁獲量）から，漁協別の中層浮魚礁での漁獲量を推定したところ，I礁域では和歌山南漁協の本所・すさみ支所で，カツオが1.7トン，その他が0.4トン，SU礁域では和歌山南漁協のすさみ支所で，カツオが4.7トン，その他が0.2トン，S礁域では和歌山南漁協のすさみ支所で，カツオが7.3トン，KU礁域では和歌山南漁協のすさみ支所，和歌山東漁協の本所・古座・浦神支所，宇久井漁協で，カツオが6.4トン，その他が0.7トン，K礁域では和歌山南漁協のすさみ支所，和歌山東漁協の古座・浦神支所で，カツオが4.8トン，その他が0.5トン漁獲された．なお，3漁協全体（1,022.8トン）に占める中層浮魚礁での漁獲率は2.6%となった．

イ　日高南部地区人工魚礁（印南町沖合）

昭和48年度設置の大型魚礁では延べ108隻（うち遊漁船28隻）の利用があり，イサキが1.2㌧(1,081千円）水揚された．昭和56年度設置の大型魚礁は利用されなかった．また，日高南部地区人工礁では延べ234隻（うち遊漁船58隻）の利用があり，イサキが2.0トン（1,965千円）水揚された．紀州日高漁協の印南町支所でのイサキ水揚量（9.7トン）に占める人工魚礁での漁獲率は33%であった．

ウ　日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

大型魚礁では，6月を中心に延べ43隻の利用があり，イサキのみ0.4トン（260千円）水揚された．和歌山南漁協の日置支所でのイサキ水揚量（4.8トン）に占める大型魚礁での漁獲率は8%であった．

なお，今回の調査では，組合の合併に伴う混乱により，調査が不十分となった．

7　成果の取り扱い

（1）成果の普及

これまでの成果は，水産基盤整備事業に取り入れられた．

（2）成果の発表

平成20年度漁場効果調査報告書．中層浮魚礁の成果については，水産庁で行われた平成20年度「浮魚礁設計積算及び施工に関する打ち合わせ会議」（平成20年11月17～18日）にて、話題提供として報告．